令和４年度　日本海にぎわい・交流海道ネットワークシンポジウム

≪　開催地挨拶　≫

■稚内市長　工藤　広

お待たせを致しましたけれども今日はですね、今、司会の方からご紹介の通り、「日本海にぎわい・交流海道ネットワーク」の総会を先程この会場で無事、終えることができ、これからは市民の皆さんを交えてシンポジウムの開催ということでありますが、こうして多くの皆さんに御来場いただいたことに、まことにもって心から感謝を申し上げたいと思っております。

わたくし達の街、じつは、三方を海に囲まれている街です。ですからこの街の発展、重要港湾稚内港、そして地方港湾宗谷港とともに、この街の発展があったわけでありますけれども、そうゆう意味でいうと、今日おいで頂いている市民の皆さんも、港湾をめぐる様々な問題に非常に関心の高いものが残るだろう、という具合に思っておりますが、今日のシンポジウムは、２つのテーマを持って、そして皆さんのその関心にお答えをしたいという形でもって、これから進めてまいりたいという具合に思っております。

ひとつは平成３０年にありました、１１万トンの大型クルーズに対応できるようにということで稚内港、末広埠頭東岸壁を改良していただいたのでありますが、その後の期待に関してですね、まさにクルーズ船そのものが、新型コロナウイルスの大影響をうけ、大ダメージをうけて、本当に大変な時期を過ごしてきたところでございますし、また合わせて、わたくし共の港はですね、外国に近いということが、ひとつこのクルーズ船の運航に

あたってメリットであったという具合に理解をしておりましたけれども、ご承知の通り、ロシアの今の現状、本当にこの先どうなるのかという不安を持って見られている方がたくさんおられるという具合に思っております。そんなことをぜひ今日は、世界というか国際的にクルーズの運航をされている、コスタクルーズ日本支社　小早川さんから色々とご指南をいただきたいという具合に思っておりますし、もうひとつは地元の方はよくご存じでありますが、今まさに６０万キロの風力発電の建設に、この街の地域が取り組んでおりますし、進められております。その開発の中心になっている企業であります、ユーラスエナジーホールディングスの加藤さんには、ぜひ今、進められているこの地域でのこの大型風車建設の展開そして、それに関わる、絡む港湾の整備について、そして皆さんにお知らせできる、まさに国が進めている、２０５０カーボンニュートラル、その実現に向けてある意味トップランナーとして走っていく企業のひとつでもありますから、ぜひ皆さんの興味あるお話し、お聞かせ頂けるとそのように考えております。なお、このシンポジウムに今日は、わざわざ東京から、国土交通省大臣官房　遠藤技術参事官においでをいただいておりますし、また札幌からは、北海道開発局の鈴木港湾空港部長においでをいただいております。

　そういう意味では本当にご協力頂き、心から感謝を申し上げるのでありますが、シンポジウム開催にあたっての、わたくしからの開催地を代表しての挨拶とさせていただきます。今日は、どうぞよろしくお願いいたします。